

令和 8 年度 美咲町民生員児童委員 持続可能な活動検討チーム第 1 回会議 要約
日時場所 令和 8 年 5 月 1 2 日 (火) 9 時 3 0 分～ 役場本庁 2 0 1 号室

令和 8 年度の第 1 回目となる美咲町民生委員児童委員の持続可能な活動検討チーム会議が開催された。会議では、前年度までの具体的な改善実績と積み残された継続課題が共有された後、今年度の活動方針として 5 つの部会（主任児童委員、あり方、新人、当て職、DX）の設置が決定された。各部会のリーダーが選任され、参加者からは認知症支援や防災など多岐にわたる課題への取り組み意欲が示され、活発な意見交換が行われた。

会議の開会と参加者紹介

会議は、福祉しあわせ課の谷口氏の司会で定刻通りに開始された。冒頭、福祉しあわせ課長の草地氏より開会の挨拶が行われた。草地氏は、令和 8 年度第 1 回の検討チーム会議への参加に感謝を述べるとともに、民生委員・児童委員が日頃から高齢者の見守りや子育て家庭の支援など、地域福祉の最前線で多大な貢献をしていることに対し、改めて敬意と感謝の意を表明した。また、本日から 18 日までが「民生委員児童委員の活動強化週間」であることに触れ、早朝からの啓発活動への参加にも謝意を述べた。

続いて草地氏は、本検討チームが令和 6 年度から活動を重ね、昨年度には在宅福祉基礎調査の見直しや活動費の銀行振込化など、現場の負担軽減につながる数多くの改善を実現したことを報告。一方で、会計事務のさらなる負担軽減やデジタル導入の検討、地区割りの見直しといった課題が依然として残っており、今年度も引き続き活発な議論を期待していると語った。

事務連絡として、資料の確認とマイクの使用方法が案内された後、名簿順に参加者全員の自己紹介が行われた。中央地域、旭地域、柵原地域など各地区の民生委員・児童委員、主任児童委員に加え、アドバイザーの森本氏、地域包括支援センター、社会福祉協議会、町役場の各担当課の職員がそれぞれの立場と抱負を述べ、今回が初参加となる委員も紹介された。なお、社会福祉協議会の小林課長は欠席であることが伝えられた。

前年度までの活動報告：実績と継続課題の共有

事務局の谷口氏より、前年度までの活動成果と今後の課題について詳細な報告が行われた。まず、検討チームの体制図が示され、民生委員の困りごとや課題を検討する中で、昨年度「新人部会」「あり方部会」「書類部会」「主任児童委員部会」「仕事部会」という5つの部会が発足し、多くの改善提案が実現に至った経緯が説明された。

具体的な改善実績として、以下の14項目が挙げられた。

1. 在宅福祉基礎調査の見直し：書類部会が検討し、薬剤提出の不要化など負担を軽減。
2. 緊急通報システム利用者実態把握表の見直し：様式を統一し、電池確認を廃止。
3. 児童扶養手当に関する証明事務の改善：民生委員が必ず行う業務ではないことを確認。
4. 世代別一覧表の配布：必要な委員に限定して配布し、返却をルール化。
5. 会議時間・方法の見直し：夜間開催の検討や総会の土曜日開催を実施。
6. 協力委員（サポーター）体制のモデル実施：上口地区で見守り等を行う協力委員9名を選出。
7. 主任児童委員と民生委員の連携様式の新設：「共有連絡シート」を作成。
8. 主任児童委員と役場の情報共有の場を設置：子ども課との定期的な情報交換会が実現。
9. 主任児童委員の定例会参加の見直し：9月と1月の定例会への参加を不要とした。
10. 活動費の銀行振込開始：役場から各委員の口座へ直接振り込む方式に変更。
11. 新人向け研修会の実施：2月に研修会を開催。
12. 合同引き継ぎ会の実施：2月13日に新人部会が主体となり実施。
13. 同行訪問など協力体制の構築：一人での訪問が不安な場合の協力体制を周知。
14. 相談窓口の明確化：民生委員向けの相談先を4つに整理し周知。

次に、依然として解決が必要な「継続課題」として以下の7点が提示された。

1. 会計事務の負担軽減：予算の都合で外部委託を断念しており、引き続き効率化を検討。
2. 主任児童委員の役割の周知：作成した「共有連絡シート」の活用を含め、さらなる周知が必要。
3. 地区割りのあり方の検討：後継者不足や一部委員への負担集中が課題。
4. 地域への理解促進：民生委員活動への理解が十分に得られていない現状の改善。
5. 防災関係の負担軽減：避難行動要支援者名簿の取りまとめについて、自治会との連携方法を再検討。
6. デジタル導入の検討：昨年度は交付金が不採択となったが、LINE活用などを含め今年度も検討を継続。
7. 協力員制度の拡大：先行地区での成果を踏まえ、他地区への展開方法を議論。

これらの報告を受け、草地課長は、委員の忌憚のない意見が形になることの素晴らしさを強調し、今後の議論への協力を改めて呼びかけた。

今年度の活動方針と部会の再編案

アドバイザーの森本氏の進行のもと、今年度の活動の核となる部会の再編について議論が行われた。昨年度の5つの部会（新人、あり方、書類、主任児童委員、仕事）の活動実績と継続課題を踏まえ、事務局から今年度の部会として以下の5つの設置案が提示された。

1. 主任児童委員部会：メンバーが揃い次第、活動を再開する。
2. あり方部会：地区割りや協力員制度など、制度の根幹に関わる課題を引き続き検討する。
3. 新人部会：新人委員が安心して活動を始められるよう支援する。参加者から「研修部会」としての役割を強化すべきとの意見が強く出され、研修の企画・実施を活動の柱とすることが確認された。
4. 当て職部会（旧 書類部会）：書類の改善に加え、民生委員が兼務する様々な役職（当て職）の重複や負担を整理・効率化することを目的とする。
5. DX 部会（旧 仕事部会）：仕事を持つ委員の負担軽減策に加え、LINE 活用や各種書類のデジタル化など、活動全体の効率化をデジタルの側面から検討する。

この提案に対し、参加者からは特に「研修」の重要性が強調された。「12月の委嘱後、すぐに活動が始まるのに研修が2月では遅い」「活動記録の書き方など、実践的な研修が必要」といった意見が出された。また、DX 部会については、デジタルに不慣れな委員への配慮も必要であること、アナログな手法と併用しながら便利な部分で活用していく方向性が確認された。最終的に、これらの意見を反映させる形で、事務局が提案した5部会の設置が承認された。

部会メンバーの選任と全体意見交換

設置が承認された5つの部会について、リーダーの選任と参加メンバーの募集が行われた。各部会のリーダーが決定した後、参加を希望する委員が次々と手を挙げ、活発な意見交換の場となった。

リーダー：

あり方部会：松坂 秀吉 氏

新人部会（研修部会）：村上三子 氏

あて職部会：杉本邦子 氏

DX 部会：黒瀬要一 氏

地区割部会（あり方部会から派生）：梶尾律夫 氏

主任児童委員部会：飯田純子 氏

認知症部会：梶尾洋子 氏

部会参加者：稲岡尚美 氏 新人部会
：杉本邦子 氏 あて職部会 DX 部会
：黒瀬要一 氏 DX 部会
：村上三子 氏 新人部会
：杉山 卓 氏 新人部会
：草地圓正 氏 あて職部会
：松坂秀吉 氏 あり方部会
：飯田純子 氏 主任児童委員部会
：菊井民子 氏 あて職部会 認知症部会
：丸尾美代子 氏 新人部会
：梶尾洋子 氏 あり方部会 認知症部会
：梶尾律夫 氏 地区割部会 主任児童委員部会
その他委員は保留

主な意見と参加表明：

多くの新人委員から「活動の進め方が分からない」との声が上がり、「新人部会（研修部会）」への参加希望が相次いだ。

「当て職部会」や「DX 部会」には、業務の効率化に強い関心を持つ委員が参加を表明した。

梶野洋子氏と菊井民子氏からは、認知症サポーター（オレンジキャラバン）の活動と民生委員活動を連携させたいとの提案があり、新たに「認知症部会」を2名で立ち上げることが決まった。

複数の部会への参加（兼務）や、オブザーバーとしての参加も可能であることが確認され、多くの委員が複数のテーマに関心を示した。

地域包括支援センターや役場の担当者からも、それぞれの専門性を活かして各部会に協力していきたいとの発言があった。

このセッションを通じて、委員一人ひとりが抱える課題意識や活動への熱意が共有され、自主的な課題解決に向けた体制が具体化した。

今後の予定と閉会

会議の最後に、今後のスケジュールと連絡事項が事務局の谷口氏より共有された。

今後の会議予定：

次回の検討チーム本会議は9月を予定（日程は後日調整）。

各部会は、それぞれのテーマや進捗に応じて、リーダーを中心に随時開催する。

連絡・意見提出：

会議での発言内容を補足したり、新たに意見を伝えたりするための「感想用紙」が配布された。提出は5月15日までを目安とするが、期限後も受け付ける。QRコードからのオンライン提出も可能。

今後の迅速な情報共有のため、検討チームのLINEグループが作成された。未登録の委員には、会議後に登録をサポートすることが案内された。

最後に、草地課長が閉会の挨拶を述べた。活発な議論により初回会議が有意義なものとなったことに感謝を表明し、今後も行政として民生委員活動を支え、負担軽減に向けて共に取り組んでいく姿勢を示した。会議は予定通り終了し、終了後には部会参加希望者の最終確認が行われた。